

ごちそうとぼうさい(=ごちぼう)とは？

当たり前の無事・安全に感謝して、非常食をみんなで、ごちそうにして食べる。

「非常食がシェフの手で、ごちそうに変身！」する体験を入口に、
防災意識を高め、共通体験を通じて地域の関係性を高めるイベント。

非常食を集める。

地域の皆で集い
非常食をシェフが
「ごちそう」に。

防災に関して
学び、考える。

平時からの備蓄方法
「ローリングストック法」の伝授
食の防災地図づくりWS

次の非常食を
持ち帰り、備える。



ごちぼうで、伝えたいこと

「防災力」は、食・情報・人間関係の「日常の生活力」で培かおう！

①非常食の捉え方を変え、平時からの備えを易しく！

東北大震災の被災者からは「備えていても、タンスの奥から持ち出せなかった」

「いざ食べるとき賞味期限が切れていた」という声があった。

平時から定期的に備蓄する易い方法を伝え、防災への意識を保つきっかけにしたい。

②食事の場を通して、いざという時に安心な関係づくりを！

非常時には「栄養を端的に満たす」「賞味期限が長い」という「食糧」という面だけでなく

心を満たし、食の場を通して助け合える関係性を築く「食事」という面も重要。

食事という、誰もが共感できる場を通して、地域の人々の関係性を強めたい。



＊ 「持続可能な資源利用に向けたモデル事業（2015）」では、
都内自治体や町内会など防災に関わる市民団体等と連携し、イベント等を企画します。